

ニシテ鳥ノ熟地ニ於テハ之ヲテ歸巢シ得ルモ飛翔距離ニ比シテ大ニ
ノ時間ヲ要ス

(右項ニ合シ外ニ濕氣ヲ陰闇等モヲ少影郷音スベシ)

(四) 濃霧ニ遇テ歸巢シ得ザリシ鳩ハ其零ルヤ相次テ歸巢スル例ス

(物体ノ認識容易ナルヲ以テ)

(五) 降雨ニテモ視界相當ニ廣キ時ハ特ニ飛翔ニ障害ハ大ニテ羽翼ノ

脂肪分ヲ洗ヒ落サル場合等)ナキ限リ能ク歸巢ス

(濕氣、陰闇等ノ歸巢ニ及ボス影響ハ之ヲ視覚遮蔽場合

ニ比スレバ左程大ナルニアラザルヲ知ル)

(六) 夜間放鳩ニ於テ月明ノ夜ハ暗夜ニ比シ歸巢成績一段良好ナリ

(物体認識シ易シ)

(七) 鳩舎附近一帯燈火管制ヲナサル場合ハ日常(燈火管制ヲナサ

ル場合)ニ比シ歸巢成績大ニ減退ス

右場合闇夜ナル時ハ其傾向著シ

(目標ヲ得ルニ困難)

(ハ) 既訓練方向ヨリハ数百科ノ遠距離ヨリ能ク歸巢シ得ル鳩ヲ末訓

練ノ他ノ方向百科附近ヨリ放鳩スル時ハ大部ノ鳩ハ満足ニ歸巢

スルヲ得ズ

(一) 方向判定困難

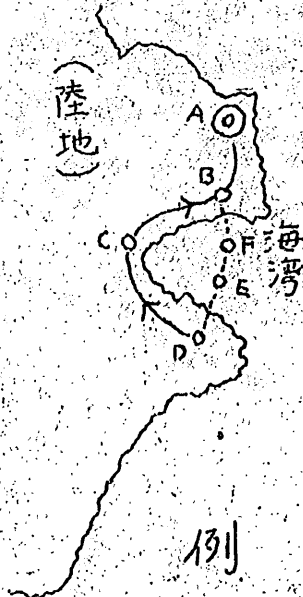
(九) 一定地奥及其附近ヨリ頻繁ニ放鳩スル時ハ飯巢成績殆んど
一ダス

(二) 方向判定完全ナリ一定路ヲ飛翔ス

(十) 放鳩訓練ノ際鳩ハ飯還徑路ヲ觀察スルニ概ネ安全率大ニシテ
目識別シ易キ空路(海岸線上等)ヲ辿ル事ヲソシ

(保安上茲ニ記憶上ノ關係ナラン)

右場合管理者ノ適切ナル訓練ニ依リ空路ヲ変更セシムルコトヲ得



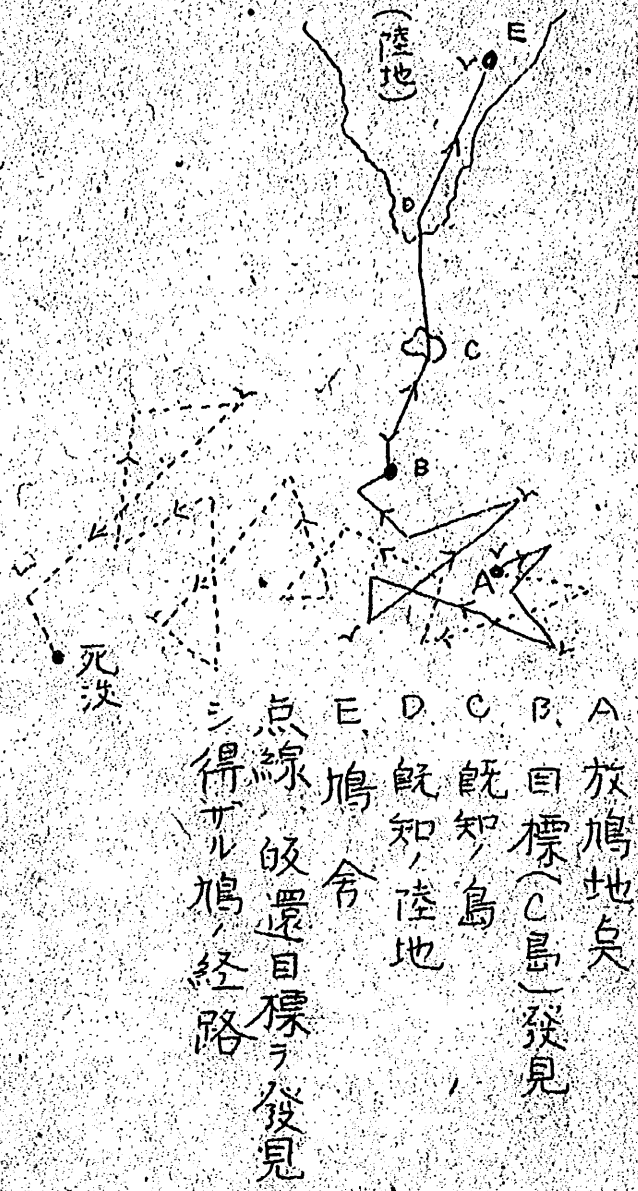
例

Aヲ鳩舎トシDヲ放鳩地トスレバ鳩ハ
通例D、C、Bヲ経テ飯巢スルモD、E
ニ於テ訓練ヲ励行スレバD、E、F、Bヲ空過
シテ飯巢ス

(十一) 海上放鳩ニ於テ奥々トシテ島嶼散在スル地域(伊豆之島ノ如ク)ニ於テ
ハ飯巢成績概ネ確實サルモ之ニ反シ何等目標ヲ捉ヘ得ザル洋上
ニテハ全く不確實ナリ
此場合鳩ハ飯還目標ヲ捉ヘ得ル迄右往左往シ而シテ之ヲ得ル、四三

時がく、敵艦、何れも終るアル場合、果モナク洋上ヲ彷徨シ、遂ニ行方不明ノ悲運ニ陥ルガ如シ

洋上放鳩ニ於
テ飛翔
経路想像図



(一) 放鳩ノ際、既知ノ目標(既知ト見シキ高山、都市、島嶼等)ヲ得ラル、場合之ニ向テ飛翔スルコトヲシ、曾テ佐々保隊ノ軍鳩ガ佐々保ト長崎トノ間遠ヘテ多数ノ鳩ガ長崎ニ舞ヒ込ミタル實例アリ

(二) 鳩舎又ハ其近傍ニ物的変化ヲ及ボシタルトキ、鋭敏ニ之ヲ感知ス

(三) 鳩舎又ハ其近傍ニ物的変化ヲ及ボシタルトキ、鋭敏ニ之ヲ感知ス

例へば到着台ノ板一板ノ増減ニテモ直ニ之ヲ感知シ慣ルマデ
入會ニ影響サス

(記憶カラ表ハス)

(四) 日常飯巢成績良好ナル地域ニ於テ俄ニ饑タクル白雪ニ覆ハ
レタル時放鳩スルニ譬ヘ降雪既ニ止ミ視界廣漠タルトキト雖モ
飯巢成績甚數ク不良ニ陥リ遠距離ニアリテハ數多ク未着鳩
ヲ生ス

此場合解雪シテ常ノ状態ニ飯スルニ從ヒ陸續トシテ飯巢ス
(色彩変化ニ對スル記憶カラ示スモノニシテ又記憶カト方向
判定ト密接ナル関係表現ト見ルベシ)

以上結果ヲ綜合スルニ從來不可解事視サレシ鳩ノ方向感モ肉眼的
視力並視覺的記憶力及物の判断力ヲ缺除スル時ハ全ク成立シ得
サルコト明カニシテ又之等ノ方向判定ハ主因ナルベキコトハ想像スルニ難カラ
ズ若シ他ニ科學カラ以テ解説不可能ナル潛在的能力(鳩令附近ヨリ
ハ絶ヘス特種ノ感味アルモノヲ發散シツアリ 鳩ハ遠方ニ於テ放サレタル時
此感味ヨリ方向ヲ判定シテ飯巢スト之ヲ如キモ其一説アリ)アリトスル
モ果シテ如何ナル状態ニ於テ如何ナル程度ニ方向判定ニ関係シツアリ
ヤ否ヤ其ノ根據全ク不明ニシテ又之ヲ常ノ状態ニ於テ鳩ノ方向判定ヲ四五

支那ハ程大ニモテサルコトハ以上實驗ノ證明ナル所ナリ斯ノ如ク肉眼四六
視カク鳩ノ方何判定ニ對シ極メテ重要ナル地位ヲ占ムルモノナレドモ此ノ卓越
サル肉眼視カハ能ク暗夜ヲモ透視シ得ルモノナリヤ或ハ又夜間ハ全ク視カ
ラ失フモノナリヤ 本事項ノ研究ハ夜間鳩養成上極メテ重要ノ事柄
ナルヲ以テ次ニ實驗ノ結果ヲ述ベテ之ヲ解決スル資料ニ供ス

(一) 暗夜飛翔中或ハ鳩舎ニ飯着ノ際架空線其他ノ物体ニ衝突スル
鳩ノ頻出スルヲ目撃ス尚夜間飛翔訓練ヲ頻繁ニ實施スル時ハ各
所鳩ノ衝突慘死体ヲ發見スルコトアリ

(夜間視カノ不充ナルヲ示ス)

(二) 夜間極メテ靜カニ鳩体ノ近邊ニ手又ハ他ノ物体ヲ近ツクレバ能
ク之ヲ看破シ小キ指先ニテモ殆ント啄打ヲ誤ラス又夜間(薄
暮)放鳩直後ニ於テ巧ニ架空線等ヲ避ク

(視覺ノ存在ヲ證)

(三) 暗夜鳩舎ニ燈光ヲ点ズレバ能ク粟粒ノ如キ飼糧ヲモ啄取シ得
ルモ燈光ヲ滅スレバ之ヲ得シ得ズ

(光明ト視カトノ關係ヲ示ス)

(四) 月明時ニ於ケル夜間放鳩ニヤリテハ直距離ニ十料ヲ越ス場合ニモ鳩
ハ南相當數ノ集團ヲ保持シテ飯舎スルコト敢テ珍ランカラサルモ

暗夜ニテハ特別近距離（十軒以内）ニ於ケル場合、外集團ニテ飯
舍スル例ヲ見ス

（右項ニ全シ）

以テ事實ヨリ推断スル鳩ハ暗夜ヲ透視シ得ル視カヲ有セザルモ亦
夜間ト雖モ余ヲ視カヲ失フモノニアラス其程度ハ明暗度ノ如何ニヨリテ
決定セラルモノニシテ恰モ人間ノ視覚ニ於ケルガ如シ而モ空中飛翔ニヨリ
視カヨル物体ノ認識ニ對シテハ人間以上ニ有利ノ地位ニアルモノト之ヲベシ
實際止透視ニ遠距離物体ノ認識ハ上空ヨリ行フコトノ有利ナルハ茲ニ説
クマデモ無ク殊ニ夜間盆地ノ村落並ニ市街等ニ点在セル無數ノ燈光又ハ
光芒山岳起伏ノ状態及水陸境界線等ノ認識ノ容易ナルコト地上ニ於ケ
ル想像以上ナリ（飛行機上ヨリ實驗ニ依ル）見レ鳩ガ夜間ニ於テモ尚飯
還自標ヲ捉ヘ得ル所以ナリトス

以上研究ニヨリ鳩ノ夜間ニ於ケル方向判定カ何ヨリ行ヘルカ、資料ヲ索メ
得タルモ生來活動性ヲ晝間ニ保持シ來レル鳩ガ最初ヨリ之ヲ克クスル能
ハザルヤカ論ナリ故ニ之カ勵發訓練ニ當リテハ常ニ易ヨリ難ニ近ヨリ
遠ニト漸ニ晝夜ヲ通シテ好メテ多ク練習機會ヲ與ヘ以テ田中の確
ニ地物ヲ觀察センルト共ニ一面暗ヲ透シテ茫然ト浮キ出スル物体及田中
ハ影タニモ現ハサヌ市街村落海岸（奥船）等燈光又ハ之等ノ光芒四

ヲ認識セシメ何レ位置ナルカヲ判断記憶セシムル事肝要ナリ
 以テ大ニ注意スルニホトクニ研究ノ結果未ダ得ル貴重ナル資料ニシテ
 管理者ハ能ク之ヲ含味熟慮シ上ニ示ス方法ニ據リ訓練ヲ實施ス
 ルヲ要ス

四八

設備

一 鳩舎位置

高燥、周圍、閑曠、閑靜ニシテ保健ニ適シ、舍外飛翔及飯巢等ニ障
 害ヲ与ルツ燈光等、影響少ナキ場所ヲ可トス故ニ海邊丘山又ハ屋上
 等ニ設置セバ有利ナリ、尚架空線ハ本鳩舎、最忌ム所ナレバ好メテ
 之ヲ避クルヲ要ス

(注)

(一) 燈光ノ影、郷音大ナル時ハ鳩舎ヨリ飛ヒ出テタル際、眩惑作用
 ヲ起シ飛翔ヲ障害ス

(二)

架空線ハ鳩ノ運動飛翔ニ障害トナリ、死傷鳩ヲ出ス
 惧ヒナリ

二 鳩舎

(第一、二、三、四圖参照)

(一) 採光 換氣装置ニ関シ特別ニ考慮ヲ要ス
 南東面(太陽面)ニ面積豊富ナル硝子窓ヲ設ケ採光コレ夜間
 便ス

鳩舎ハ明暗装置ヲ用テ晝間一部光線ヲ遮蔽スルコトアルヲ以テ之ヲ補ハシガ
 爲晝間鳩舎ニ比シ一段豊富ナル採光装置ヲ要スルモノナリ
 換氣装置ニ於テモ右ト同様ニ充分考慮シテ設備スルヲ要ス
 (二) 鳩室側ニ鳩兵控室(事務用机並就寢装置ヲ有ス)ヲ設ケ鳩ノ觀
 察ト夜間見張ニ備フ

三 鳩室内ハ成可ク簡單整正シテ散步甚ハ豊富ニシテ全鳩ノ休養
 ニ適スベク巢房ハ雖育成ニ支障ナキ程度ニ小型トナシテ下方ニ
 局限シ以テ夜間ニ於ケル鳩ノ運動ニ便ナラシム

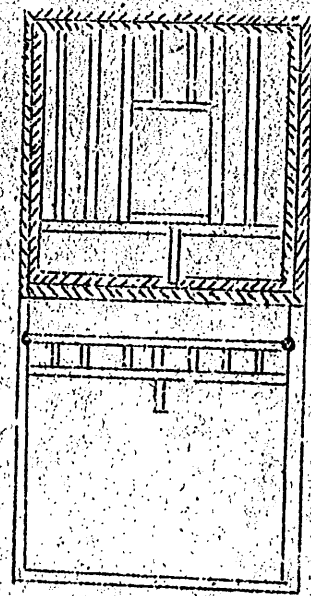
(註) 一 夜間鳩舎ニ於テハ晝間鳩舎同様ニ蕃殖ヲ行フコトハ困難ナリ

コレ蕃殖ニ起因スル親鳩ノ疲勞ヲ懸念スレバナリ故ニ蕃殖ハ大
 凡第ニ回雛ノ巢之ヲ以テ打切ル如ク實施スルヲ要ス
 (二) 巢房ハ蕃殖期間ノ整備シ此期間ヲ過グレバ前扉(巢房
 正面ノ扉)ヲ除去スルカ或ハ回轉式ニヨリ左図如ク上方ニ回轉シ
 夜ノ出入ニ便ナラシム(次頁参照)

四 鳩室内ニ電燈設備ヲ要ス

(イ) 番殖中

(ロ) 非番殖中(前扉ヲ奥ニ回轉ス)



四 鳩室内ニ電燈設備ヲ要ス

夜間給餌、飲水、捕鳩、觀察、點檢又ハ舍鳩ヲシテ棲息所ニ就

カシムルニ電燈設備ヲ必要トス此ノ電燈ハ燭カノ相異ナルニ燈(一)ラ

ニ燭(一)ハ燭トスルガ如シニ用ヒ必要ノ向キニ夫々點燈シ得ル如クナス

ヲ要ス

(註) 採食、捕鳩、點檢等ニ必要アル場合外ハ成可ク低燭ノ電燈ヲ用フル

ヲ可トス蓋シ皎々シル燈光ハ鳩ノ安眠ヲ害スル虞アレハナリ

五 明暗裝置ヲ設備スベシ

晝間室内ヲ自在ニラシムル爲明暗裝置ヲ設ク此裝置ハ夜間鳩舍

獨時モニシテ之ヲ鳩舎内外側何レニ裝備スルモ敢テ差支ナクモ取扱上一
部ハ内側ニ一部ハ外側ニ裝備スルヲ便利ナス

明暗裝置ノ効用ハ晝間必要ニ應ジテ之ヲ閉シテ夜間ニ擬シ鳩ニ休養ヲ
與フルニテリ故ニ晝ニ暗黒化シニ提ハレテ通風換氣ヲ勿ニスルコトアラバ
其ノ効果ヲ低下スルミナラス時ニ之ガ爲甚クシク健康上障害ヲ招
クコトアリ故ニ本裝置ハ之ヲ閉シタル時ト雖モ充分通風換氣ノ
途ヲ講スルヲ要ス

以上ノ見地ヨリ本裝置ハ鏝窓式トナスヲ最適良ナリトス
又本裝置ヲ用ヒタル際ノ明暗度ハ深ク懸念スルヲ要セス概ネ薄闇
程度ニテ可ナリ(但シ直ニ光線ヲ防グヲ要ス)要ハ外部ヨリノ刺激ヲ防
グ鳩ニ休養ヲ與ヘ得レバ足レリトス若シ夫レ暗黒界其モノニ對スル
慣習ハ敢テ之ヲ晝間ニ求ルヲ要ナク日々籠ニ來ル夜間ヲ利用スレバ
事足レリトス

(六) 鳩舎外部ハ成可ク突出物ヲ除去スベシ

是レ暗夜ニ於ケル衝突ヲ防ギ鳩ノ發着ヲ易カラシムルヲメナリ

(七) 到着臺大型ノモノヲ設備スベシ

飯舎鳩ノ大部(殆ド全部)ハ屋上ニ降ルコトナク直接到着台上ニ降着
セシムコレハ舎ノ好妙ヲ促スミナラス到着臺上ニ入室ノ燈光 五一

及映テ鳩落着モ容易ナレハナリ

(註) 實驗上通信鳩舎(晝夜間鳩決)到着甚ハ一般ニ大型ナルヲ

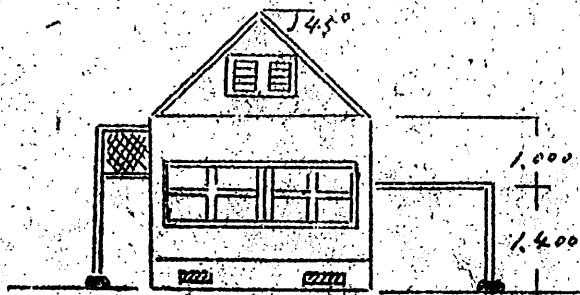
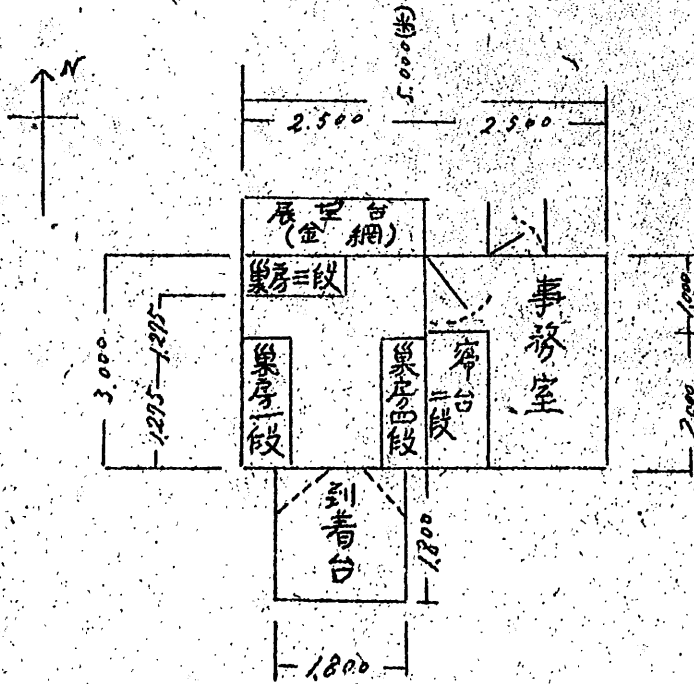
良シトス

然ル共限度ヲ越エテ大型トス時ハ反テ入舎ヲ不良ナラシムル虞アリ

(ハ) トラップハ夜間之ニ鳩ヲ導キ易カラシムル爲其外ヲ到着甚上
左右西斜前ニ傾斜大ナル箱式縦板(上部ニ鳩棲ルヲ許サズ)
ヲ以テ之ヲ圍ミ且成シ得ル電鐘裝置ヲ施シ之ヲ鳩兵控所
ニ導クヲ可トス

(九) 鳩舎外部ハ夜間最モ發見容易ナル塗色ヲ施スヲ要ス
到着甚上面ニアルテハ殊ニ然リトス
其他諸裝置ハ一般ニ鳩舎ニ準ヤス

0812



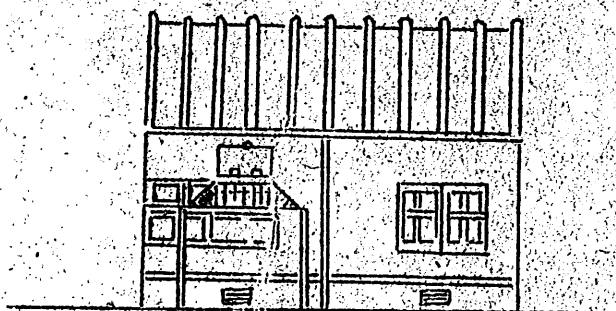
第一図(平面)

第二図(端面)

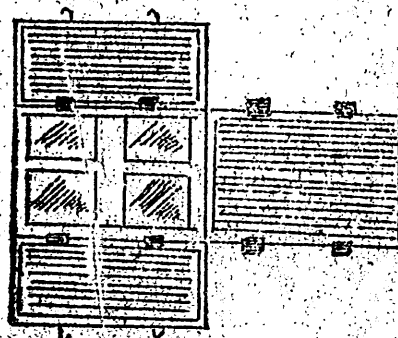
夜間鳩舎略圖(一。初收容)

南面

0813



第三図(側面) 東面



第四図(明暗装置)

訓練(別表参照)

本訓練ハ大体三期ニ分ケテ之ヲ行フ

第一期 基礎訓練(暮曉飛翔訓練)

一 開始時機

春季(四五月頃)ヲ最好時機トス

但シ情況ニ依リ何時ニテモ實施スルコトヲ得

二 移殖鳩

生後三ヶ月幼鳩ヲ最適當トス 生後六ヶ月以上ニ歳鳩附近ニ能

ク夜間鳩ヲラシメ得ルモ馴致ニタク日時ヲ要シ且ツニ歳鳩以上

ハ夜間鳩トシテ使用年限ニ乏シキヲ以テ適當ナラス實驗既訓練

鳩ハ夜間飯巢成績比較ハニ歳鳩最モ優レ三歳鳩ニ次ギ幼

鳩(六ヶ月以上夜間訓練ヲ施セルモノ)ハ三歳鳩ニ劣リ而シテ四歳以上鳩

ハ夜間鳩トシテ体カ上過重ナル負荷ニ適セザルミナラス實際ニ其

殘存スルモノ甚タ僅少ナリ 故ニ四歳以上夜間鳩ハ之ヲ晝間鳩舎

ニ移殖シ專ラ種鳩トシテ使用スルヲ得策トス 蓋シ此鳩ハ数年

ニ亘リ能ク數百回晝夜間放鳩ニ耐ヘ能力卓越ナル貴重ナル鳩

ナレバナリ

(註) 一 最初鳩ヲ移殖スルニ當リ六不通鳩(主トシテ健康上)ノ淘汰ヲ見 五五

越シテ約ニ割ラ増殖スルヲ可トス

(一) 夜間鳩ハゴスボツマンレノ如ク特ニ潑刺タル意氣ト頑強ナル体力ヲ必要トスルモノシテ從テ自ラ年齢ニ制限ヲ附スルヲ免ルナルナリ

五六

馴致

(一) 移殖後直ニ馴致ニ着手ス

(二) 馴致中ハ努メテ鳩ヲ舍内ニ慣レシムル共ニ又一定時間(午前午後各一

面一時間乃至二時間宛)鳩ヲ展望基上ニ出シ舍外ヲ觀察セシム

(註) (一) 最初ヨリ自由展望ヲ行ヒタル場合ト雖モ一定時間強制シテ展望

訓練ヲ行フヲ要ス

(二) 到着基上ニ展望装置ヲ施シタル場合ハ呼ビテ利用シテ「トランプ」

通過ノ訓練ヲ行フベシ

(三) 馴致日数ハ巢之後ノ経過日数、鳩舎位置、鳩舎施設、鳩ノ素質

取扱者ノ技術等ノ差異ニヨリ一定セサルモ通例幼鳩(但シ巢之後

四月以内モ)ナラバ数日又ハ成鳩ニ依リテハ更ニ少ク数ノ日子ヲ要

スベシ

(四) 馴致日数十日以上ニ亘ル時ハ展望訓練時刻ヲ漸時日出没時ニ近

接シテ行フヲ要ス

四 出舎（晝及日没時附近ニ於テ行フ）

出舎ハ馴致完成セリヤ否ヤヲ試験スル爲ニ行フ訓練ニレテ又之ニ依リ地物ヲ稍々精密ニ觀察セシメ馴致ニ一層確實性ヲ與フルモノニシテ舍外飛翔ト混同セザルヲ要ス 舍外飛翔ハ鳩ニ飛翔ヲ強要スルモ出舎ニアリテハ特別ノ場合ヲ除キ飛翔ヲ強要セズ 其行動ニ関シテハ特ニ支障無キ限リ鳩ノ自由意志ニ任スモノナリ

五 舍外飛翔（早朝・晝及初夜施行）

(一) 飛翔力ニ應分シ強制（初期ハ優シク次第ニ嚴シク）シテ飛翔セシム
(二) 飛翔力極メテ幼稚ナル鳩ニ對シテハ到看臺上ニ於テ數回休憩セシムル如ク實施スルヲ要ス

(三) 早朝及初夜實施スル舍外飛翔ハ最初日出三十分前及日没時附近ヨリ開始シ爾後概ネ四五分ヲ經過スル毎ニ開始時刻ヲ變更（暮晚共ニ約十分間宛正子ニ向テ進行ス）シ同時ニ漸次飛翔時間ヲ延長シ本訓練（舍外飛翔）開始後ハ五音ニシテ豫メ日出一時間半前ヨリ及日没一時間後ヨリ何レモ約五十分間集團ニテ鳩舍上空ヲ施回飛翔ヲナシ得ルニ至ルモノトス

(註)

夜間舍外飛翔ヲ實施スルニ當リテハ鳩ノ夜間活動意識ヲ喚起スルタメ舍外飛翔時刻ヨリ一歩（少クモ一時間以上）前進セル夜間五

展望訓練ヲ完了シタルヲ要ス

六 放鳩訓練

(一) 鳩が漸次飛翔力ヲ獲得シ十分間以上舍外飛翔ヲ繼續シ得ルニ至ラバ放鳩訓練ヲ開始ス

(二) 放鳩訓練ハ午前午後何レ時機ニ於テ實施スルモ妨ケナシト

雖モ又隨時日出没ニ近接シテ實施スルヲ要ス

(註) 体カ上夜間鳩トシテ不適ト認ムル鳩ハ隨時淘汰ス

第二期 夜間放鳩訓練

第一期基礎訓練完了後引續キ行フ訓練ニシテ鳩ニ不識ノ間ニ夜間活動意識ヲ興ヘ且ツ夜間ニ於ケル方向判定並飯還飛翔ヲ容易ナラシメ以テ翌朝飯令ノ悪習慣ヲ付セサシカ爲特ニ次ノ諸點ニ留意ヲ要ス

一 地物觀察記憶

夜間放鳩當日若クハ數日前ニ於テ夜間放鳩地矣若クハ同方向ヨリ晝間放鳩ヲナシ地物ヲ精密ニ觀察記憶セシムルヲ要ス

例ヘバAヲ鳩舎トシCヲ夜間放鳩地トスレバ其當日又ハ數日前ニ於テB.D.Eノ何レカニ於テ晝間放鳩ヲ行フガ如シ

ニ放鳩時刻

但シ訓練進展スルニ從ヒ右ノ訓練ヲ省畧スルコトヲ得、此ハ場合ニ於テモ鳩ハ夜間放鳩地奥附近ノ地物ヲ精密ニ記憶シ居ルヲ要ス

第一面ハ日没十五分乃至三分後（天候地勢等ヨリ斟酌ス頃トシ以後歸巢成績ニヨリ適宜放鳩時刻ヲ変更ス）

(註)

(一) 前項（夜間ニ於ケル方向感ノ勵發未頃）ニ於テ述ベタル如ク晝間ハ隻

影ヲ留メ、遠近ノ光芒、燈光等ハ夜間ニ於ケル方向判定上重要ノ意

義ヲ有スルモノナルヲ以テ常ニ之等ニ對スル認識ヲ充分ナラシムル爲メ夜

間放鳩訓練ノ勵行ヲ必要トス、又有事ニ對スル訓練トシテ燈火

管制時ヲ利用シテ訓練ヲ施行スルヲ要ス（燈火管制時ニ於テモ熟

地ニアリテハ尚相當ニ吸巢シ得ルモノナリ、横防ニ於テハ二十軒附近ヨ

リ6/10以上吸巢セシメタル實例ニシカラス）

(二) 深夜放鳩訓練ハ先以テ月夜ニ於テ行ヒ、次第ニ暗夜ニ及ボス如ク

晝畫スルヲ要ス

三、放鳩法

(三) 荒天時ニ於テハ夜間放鳩ハ収束困難ナルヲ以テ考慮ヲ要ス 六。

(一) 初期ニ於テハ各各個放鳩ヲナシ訓練進行スルニ從ヒ各個又ハ集

團放鳩ノ何レニヨルモ可ナリ

(二) 放鳩位置ハ成ル可ク燈光ノ影郷者ナキ処ヲ選定スベシ

又訓練上待テ必要ナル場合外障害物下ノ放鳩ヲ避クルモトス

(三) 暗夜放鳩ニアリテハ鳩ヲ握リテ上方ニ放揚スルヲ可トス

(四) 放鳩躍進速度

放鳩躍進速度當リテハ從來ノ放鳩成績ヲ調査參考トシ且ツ時機放鳩時刻地勢天候明暗度等ヲ考慮シテ適宜授配シ擬ネ次ノ標準ニ依リ漸時躍進スルヲ可トス

ノ晝間放鳩(軒)ニ三・五・七一・一五・三〇・二五・三〇・四〇・五〇・

六五・八〇・一〇〇以下晝間ニ同シ

2 夜間放鳩一・二・三・五・七・一〇・一五・二〇・二五・三〇・四〇・五〇・六〇・七〇・

八〇・九〇・一〇〇

夜間放鳩訓練ニ於テ晝夜共ニ放鳩躍進速度ヲ著シク縮小セルハ特ニ地物ハ燈火ヲ精密ニ斟酌察記憶セシメ夜間収束ニ支障ナカラシメンカ爲ナリ

四 明暗装置使用法

(一) 第二期訓練開始ト共ニ明暗装置ニ依リ毎日、日中ノ一部、硝子窓ヲ閉鎖シ鳩室ヲ薄闇トナシ鳩ニ休養ヲ與フ

(二) 明暗装置使用期間ハ季節並ニ氣温ノ高低及夜間訓練程度等ニヨリ差異アルモ概ネ左記ニ據ル

春秋季

正午前後トシニ時間乃至三時間

夏季

朝夕ノ涼シキ時機ヲ選ミテ一時間乃至三時間

冬季

適宜ノ時機ニ於テ一時間乃至三時間

(三) 明暗装置ハ之ニヨリ外部ヨリノ刺激ヲ防ギ鳩ニ休養ヲ與フルヲ目的トスルヲ以テ使用時機及使用时间ニ對シテハ特ニ深甚ク考慮ヲ要ス

殊ニ酷暑季節等ニ於テハ之ヲ使用シテ反テ鳩ニ苦痛ヲ與フルガ如キ事

無キ様特ニ注意ヲ要ス

五 明暗度記録

明暗度ト歸巢成績ト密接ノ關係アルヲ以テ夜間放鳩ノ際ハ必ズ明暗度ヲ觀察シ之ヲ記録スルヲ要ス 明暗度ノ計測器ハ末ノ供給

サレザルヲ以テ現在肉眼ヲ以テ觀測シ概ネ次ノ如ク區分ス

(一) 月明ト暗夜トヲ示スター先明ト暗トニ分ケ更ニ之ヲ各三等分シテ其

程度ヲ表ハス

六

(三) 明暗度ヲ表ハス数字ハ單ニ月齡ノミニ依ルコトナク天候ノ模様ニ依リ其
實際ノ明ルサ暗サヲ觀察シテ之ヲ表ス。即チ月齡三一五
附近ハ天候良好ナレバ明ナルモ満天黒雲ニ蔽ハルカ又ハ降雨ノ際等ハ
暗一―暗ニナルカ如シ

○	◐	◑	◒	◓	◔	月齡
明	明	明	明	暗	明	明暗度
二	二	一	二	一	一	
曇	晴	曇	晴	曇	晴	天候

シナ 明 月					月齡
暗	暗	暗	暗	暗	明暗度
三	二	一	一	一	
満天曇	曇	晴	晴	晴	天候

明暗度ハ放鳩ヨリ入合迄ノ平均ヲ記録スルモノトス

六
障
害
物
避
行
訓
練

障害物避行練習の目的は、以て晝間（漸次薄暮、末明ニ及ハス）時々、架空線、其他障害物下、放鳩訓練ヲ實施スルヲ可トス。本訓練ハ最初ハ樹枝下又ハ極メテ簡單ナル架空線下等ニ於テ

七 荒天訓練

行ヒ漸時複雑ナル架空線下ノ放鳩ニ及ボスモノトス

訓練進行スルニ從ヒ小雨、強風時等ニ於ル晝間舍外飛翔ヲ行ヒ次テ放鳩訓練ニ及ボシ鳩ノ抵抗カラ涵養スルト共ニ飯巢性ヲ助長センム

本訓練ハ最初ヨリ長時間ヲ課スルコトナク漸進的ニ實施スルヲ要ス

八 夜間給餌

夜間活動性ヲ誘起スルタメ給餌一部(概ネ午後七時ヨリ九時)間ニ於テ日量ノ $\frac{1}{3}$ ノ $\frac{1}{5}$ ヲ夜間ニ給ス

第三期 蕃殖並保能訓練

一 第二期訓練ハ大凡十一月末ヲ以テ之ヲ終リ十二月ニ至ラバ蕃殖準備ニ移リ他鳩全ニ先シテ交配ヲ行ヒ育雛ハ一番仔ノ巢之ヲ以テ切スルヲ可トス。コレ夜間鳩ハ晝夜共ニ活動ヲ強ヒラレ晝間鳩ニ比シ負荷一層大ナルヲ以テ之ガ緩和策トシテ蕃殖ヲ制限シ以テ蕃殖ヨリ來ル疲勞ヲ輕減センガ爲ナリ

二 夜間鳩ノ雌雄分離期間ハ晝間鳩ニ比シ稍々短縮スルコトヲ得コレ蕃殖制限ヨリ來ル生殖慾保持ノ利用ニ因ルナリ、通例約二週六三

間雌雄分離ヲ以テ交配ノ効果ヲ收メ居レリ

三 成鳩(三歳)ヲ補充シテ夜間鳩ヲランメントスル場合ハ交配時ヲ利用スル
ヲ最適當トス

四 夜間鳩ヲシテ特ニ早期ニ交配ヲ行フ所以ハ蕃殖ヲ早メ初メ年度ノ訓
練開始時ニ於テ離ハレニ巢ヲセシメ親鳩ハ体カラ恢復セル状態ニ
アラシムルト共ニ晝間鳩舎ト同時交配ヲ避ケ日常ノ通信ニ支障
ナカラシメシガ爲ナリ 故ニ飼育地ノ氣候・其他ノ情況ニ依リテ
ハ自ラ蕃殖時機ニ差異アルモトス

五 蕃殖期間ニ於テモ出来得ル限り晝夜舎外飛翔(夜間舎外飛
翔ノ際現ニ抱卵中ノ鳩ヲ追テサル様注意ヲ要ス)茲放鳩訓練
ヲ課シ以テ能力保持ニ努ルモトス

10 9 8 7					6 5 4 3 2					1	日次
21 20 19 18					17 16 15 14 13					4	月
										12	日
											月
											齡
舍外飛翔 自日没三十分前 至日没五十分前					舍外飛翔 自日没三十分前 至日没五十分前					馴致完成	
全上 三十分至三十分間 新至三十分放鳩					全上 十分乃至三十分間 五十分至一十分放鳩					畫課	
全上 自日没時 至日没三十分後					全上 自日没十分前 至日没十分後					夜	
右全 点灯給餌					朝晝夕 給餌 1/3 宛					痛要	

五

(附) 夜間鳩訓練計畫表(昭和八年年度横防訓練計畫表抜萃)
第一期 基礎訓練

23 22 21 20	19 18 17 16	15 14 13 12 11
4 3 2 1	30 29 28 27	26 25 24 23 22
))		●
舍外飛翔 自日夕一時前 至日夕十分前	舍外飛翔 自日夕五十分前 至日夕十分前	舍外飛翔 自日夕四十分前 至日夕十分前
全上 三十分至五十分間 十粒乃至十五粒放鳩	全上 三十分至五十分間 七粒乃至十粒放鳩	全上 三十分至五十分間 三粒乃至七粒放鳩
全上 日没四十分後ヨリ 四十十分間	全上 日没三十分後ヨリ 日没一時間後	全上 日没十五分後 至日没四十分後
右 全	右 全	右 全

五	五	月
下	中	旬
日没時間十分前 至日没時間 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	朝
日没時間十分前 至日没時間 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	晝
日没時間十分前 至日没時間 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	夜
日没時間十分前 至日没時間 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	摘

第二期 放鳩訓練

28	27	26	25	24
9	8	7	6	5
日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上
日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上
日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上
日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上	日没時間十分前 至日没十分前 全上

六	六	七	八	九
止	中	上	上	上
合外飛翔 目込時間五分前ヨリ 時間十五分	合外飛翔 目込時間五分前ヨリ 時間十五分	合外飛翔 目込時間五分前ヨリ 時間十五分	合外飛翔 目込時間五分前ヨリ 時間十五分	合外飛翔 目込時間五分前ヨリ 時間十五分
十秒乃至十秒放鳩 全上	十秒乃至十秒放鳩 全上	十秒乃至十秒放鳩 全上	十秒乃至十秒放鳩 全上	十秒乃至十秒放鳩 全上
七秒乃至五秒放鳩 全上	七秒乃至五秒放鳩 全上	七秒乃至五秒放鳩 全上	七秒乃至五秒放鳩 全上	七秒乃至五秒放鳩 全上
目込時間三十分後ヨリ 時間十五分 十秒乃至十秒放鳩	目込時間三十分後ヨリ 時間十五分 十秒乃至十秒放鳩	目込時間三十分後ヨリ 時間十五分 十秒乃至十秒放鳩	目込時間三十分後ヨリ 時間十五分 十秒乃至十秒放鳩	目込時間三十分後ヨリ 時間十五分 十秒乃至十秒放鳩
右 全	右 全	右 全	右 全	右 全

六

一 上 中 下	〇 上 中 下
舍外飛翔 時刻不定 三分乃至二時間	舍外飛翔 日中時間乃至四時間 三分乃至二時間三分
全上 一時間乃至二時間 五秒乃至二百秒放鳩	全上 一時間乃至二時間 五秒乃至二百秒放鳩
全上 時刻不定 三分乃至二時間三分 百秒以内放鳩	全上 日中時間乃至五時間 三分乃至二時間三分 百秒以内放鳩
深夜	書間ヨリ夜間へ 夜間ヨリ書間へ等

(備考)

(一) 夜間鳩養成ニ當リテ特ニ鳩舎衛生ニ注意シ健康上夜間鳩ニ不適ト認ムルモハ之ヲ淘汰シ晝間鳩舎ニ編入ス

(二) 夜間舎外飛翔ハ薄暮及夜明けヨリ各深夜ニ向テ進行スルモノナルモ午後十時及午前三時ニ達シタルトキハ一夜ニ双方ヲ實施スルコトナク適宜交互ニ之ヲ施行スルモノトス

(三) 天候其他ノ情況ニ依リ夜間訓練(展望舎外飛翔放鳩訓練等)ヲ施行シ難キ場合ハ係員ハ同夜一度鳩室内ニ於テ鳩ニ覚醒ヲ與ヘ夜間活動意識ヲ喚起スルモノトス

第一節 艦上鳩舎訓練

本訓練、鳩舎搭載艦（之ヲ鳩舎艦ト稱ス）行動繁閑ニ依リ自ラ差異アルモ要ハ鳩ヲシテ自艦、艦形ヲ熟知セシムト共ニ移動性ヲ保有セシムルニテコレカ爲鳩舎艦ヲ頻繁ニ泊地変更スルヲ良シトスルモハ事實上難事ナルヲ以テ出来得ル限リ艦行動ヲ利用シテ訓練ヲ施行スルヲ要ス

一 泊地於テ訓練 陸上固定鳩舎訓練ニ準ズ但シ生地ニ碇泊スル場合ハ入港前ヨリ全鳩ヲ粉メテ展望台上ニ出シ附近地物ヲ觀察セシメ以テ馴致ニ要スル時間ヲナルヘク小ナラシムルヲ要ス尚訓練ヲ増スニ從ヒ入港前ニ三湊ノ地点ヨリ舍外飛翔ヲ課シ航海中ノ艦ニ追隨飛翔セシメ入港後直ニ呼込ニ方テ採ル時ハ泊地ニ對スル馴致ヲ一層速クナラシメ得ルモノナリ

二 航行中ノ訓練 本訓練ノ主旨ハ鳩ヲシテ自艦ヲ移動シツアルヲ認識セシメ以テ航行中ノ鳩舎艦ニ對スル歸巢性ヲ涵養スルニアリ其ノ方法トシテ先ニ航行中ノ舍外飛翔ヲ完成シ進ニ航行中ノ鳩舎艦ニ對シ放鳩訓練ヲ行フニ至ルヲナリ航行中ノ舍外飛翔ハ低速ヨリ之ヲ行ヒ且ツ時ニ多敷ノ鳩ヲ多スラ避ケ最初ハ先ツ數羽ノ鳩ニヨリテ之ヲ試ミ漸時鳩數ヲ増加スル如クスルヲ要ス然ラサレハ意外ノ失策ヲ招ク事アリ殊ニ一也ニ永ク碇泊シタル後出港シタル場合ノ如キ特ニ然リトス航行中ノ放鳩訓練ハ他艦又ハ陸上等ヨリ放鳩シテ以テ鳩舎艦ニ返艦セシムルモノナルモ訓練可能

距離ハ甚ク少シテ本鳩舎船ヲ認識シ得ル圍内ヨリ出ルト雖モ要スル鳩舎
航行中軍鳩通信成績ハ鳩舎船ノ速カト西者ノ距離ニ深キ關係ヲ有スル
コト勿論ナレトモ實驗上勞多クシテ効少キヲ憾トス

第八節 移動鳩舎(車)ノ訓練

本訓練ハ鳩ノ移動性ヲ以テ生地ニ移動シタル時最短時間ニ馴致スル
直ニ通信ノ任務ニ服シ得ルヲ目的トス。本訓練ハ普通幼鳩(巢立後ノ経過日数
成ル可ク僅少ナルモノヲ以テスレハ馴致容易ナリ)ヲ移動シテ行ヒ馴致相俟
ツテ鳩舎(車)ノ地ニ定着セサルコトヲ自覚セシムルコト緊要ニシテ大凡左記要
領ニ準據シテ實施スルモトス

(イ) 前記ノ幼鳩移動後速クニ鳩舎(車)ノ移動ヲ行ヒ且ツ頻繁ニコレヲ反覆ス
(ロ) 移動ハ先ツ鳩舎(車)ノ施面(ニ三面)ヨリ始メ逐次移動距離ヲ増加ス
(ハ) 移動後ハ直ニ馴致ニ努メ第ニ面ノ出舍ハ同時ニ全鳩ヲ出スコトナク先ツ教羽ヲ出
シテ情勢ヲ窺ヒ漸次総鳩ニ及ボスモトス

(ニ) 地ニ停滯スル日数ハ馴致放鳩訓練等ニ要スル最小限度トス

(ホ) 舍外飛翔ヲ励行シ放鳩距離ノ増加ト共ニ逐次飛翔時間ヲ増ス

(ハ) 放鳩訓練ハ体力ノ発達ニ伴ヒ其ノ距離ヲ増加シ少ナクとも二十料以上及ビ必要
ニ應ジ百料附近ニ達スルモトス

(ト) 本訓練終了後一地ニ永ク停滯スル時ハ忽チニシテ固着性ヲ生スルヲ以テ適セ

(註) 移動訓練を終了し鳩を檻上鳩舎に移動スル時ハ訓練ハ便益アリ
 第九節 往復通信鳩舎ノ訓練

往復通信ハ鳩ヲシテ棲息所ト食事所トヲ別ニシ日々棲息及採食ハ爲兩
 所間ヲ往復セシメ之ニ依リ定期通信ヲ行フ特種ガ法ニシテ固定ハ往復
 通信ト移動ハ往復通信トニ種アリ、固定ハ往復通信ハ普通一般ニ行ハル
 ル通信法ニシテ其ノ方法簡單ナルモ移動ハ往復通信ハ豫メ移動訓練ヲ
 施セル鳩ヲ用ヒ且絶えず鳩舎ノ移動ヲ行フヲ以テ方法モ亦複雑ナリ、本訓
 練ハ主トシテ鳩ノ性慾及食欲ヲ利用シテ鳩群ヲ夫々兩鳩舎ニ吸着スルモノ
 ナルニ使用スル鳩ハ配偶關係成立セルモノヲ以テスルハ作業上甚ク有利ナリ
 而シテ棲息鳩舎ニアリテハ雌雄互ニ同棲シ採食ハ各別ニ食事鳩舎ニ於テ
 行ハシメ日々之ヲ反復スル習慣ヲ取ラシムルモノナリ、以下固定ハ往復通信訓
 練ニ就キ其概略ヲ述ブレハ

A 法 其一

(棲)

(食)



舊來、鳩舎(A)ヲ食事鳩舎トシ往復通信、爲新ニ設ケル鳩舎(B)ヲ棲息鳩舎トス、

(注意)凡ノ棲息鳩舎ハ巢房其他棲息ニ必要ナル設備ヲナシ且、飲水ヲ準備スル一切採食ヲナサシメ又食事鳩舎ハ飼糧ヲ準備スル外巢房其他ニ類スル設備ヲナサス棲息鳩舎ト食事鳩舎トハ同型若クハニ類似ノモヲ以テ充ツル時ハ訓練上便益多シ

コノ方法ハ鳩ノ愛情食欲ヲ對照シ其勝レル處ヲ利用シテ新鳩舎ニ鳩ヲ引着ケントスルモニシテ鳩ハ季節及雌雄ヨリ其程度ニ差異アルモ雌雄共ニ愛情ハ食欲ニ勝ルモノナルヲ以テ管理其他ニ支障ナキ限リコノ方法ニ據ルトキハ馴致要スル日數ヲ節約シ作業進捗上有利ナリ

兩地鳩舎準備完成セハ凡次日程ヨリ訓練ヲ開始ス

第一日午前八時Aニ飼育スル鳩ヲBニ運搬收容ス

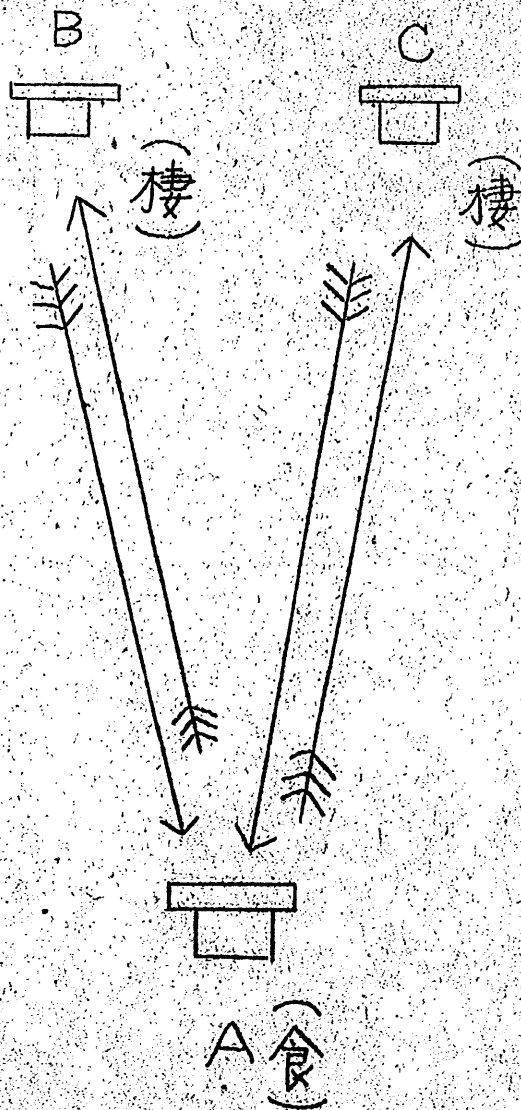
但シ兩地間ノ距離遠隔セルトキハBニ收容前豫メAB間ヲ訓練圈ニ收メ置クヲ要ス又鳩ノ年齡其ノ關係ヨリBニ收容後其ノ飼馴致ニ着キ其完成ヲ俟テ訓練ヲ開始スルモ可ナリ

第二日午前八時Bヨリ雄(雌)鳩ニミテ放リ鳩ハ直ニAニ歸來シ飼糧ニミテ與ヘ約時間休憩後Bニ運搬入舎セシム午後他ノ一方ヲ同一方法ニヨリ訓練ヲ課ス鳩ヲ運搬入舎セシム時ハ努メテ一羽宛「トスプ」ヨリニ

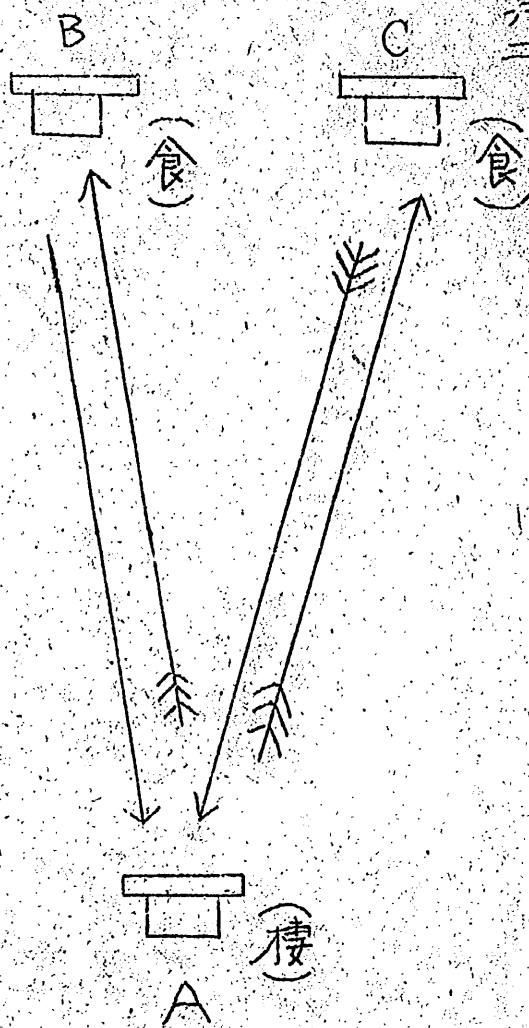
潜ハセシム可トヌ

第三日以後第二日ノ要領ニリ訓練ヲ繼續シ漸時鳩ハBニ馴ルニ從ヒ
 △ヨリ運搬セル鳩ハBノ到着臺上ニ放ツテ自ラ入舎セシメ(入舎セズ
 シテAニ歸來スルモアラハ再ヒ運搬セルカ又ハ輕キ徴罰ノ意味ニ
 テ若干時間籠内ニ幽閉スルモ可ナリ)漸時Aヨリ運搬距離ヲ減シテ
 放鳩シ遂ニAヨリ放タル鳩ハ一直線ニBニ飛來入舎スルニ至リ之ヲ
 反復シテ整然往復通信ヲ完成スルニ至ルモナリ

A 法 其 二



舊來鳩舎ヲ其終棲息鳩舎トシ往復通信ノ爲新タニ設ケタル鳩舎ヲ
 食事鳩舎トスコ方法ハAヨリ放ケタル鳩ヲBニ引着クルコトA法ニ比シ稍々
 困難ニテ從テ完成ニ時日ヲ要スルモ鳩舎管理其他ノ必要上本法ニ依リテ五



B法其二



Aニ飼育セル鳩ヲB・Cニ運搬入舎セシメル後前項ノ要領ニ據リ訓練ヲ課ス
 コ方法ハ單ニB・C(又ハB・C・D)ニ鳩ヲ分割往復セシメル外全ク前項ニ同シ
 B法其一

實施スル便利トスルコトナリ Aニ飼育セル鳩ノ雌(雄)鳩ミナ B(B.C)但シハ
B雌ナルトキハ C(雄)ニ運搬直ニ馴致ニ着手シ其完成ヲ俟ツテ往復通信
ニ適應スル如ク舍外飛翔ヲ給餌ヲ行ヒ次ニ放鳩訓練ニ移ルモトス
放鳩訓練ハ A、B、(A.B.C)共同時ニ夫々對鳩舎ニ向テ之ヲ行ヒ最後ニ兩
鳩舎ノ位置ヨリ放鳩シ良好ナル成績ヲ得タル時ハ概ネ左ノ日程ニ移ルモ
トス

第一日 午前八時 A、鳩ヲ B(B.C)ニ運搬入舎セシメ其ノ落ケ着キタル時徐

ニ給餌ヲナス午後三時第ニ給餌ヲナシ雌雄共ニ B(B.C)ニ移ス

第二日

午前八時 B(B.C)ニ於テ給餌ヲナス 午前九時全鳩ヲ解放ス Aニ
馴致サレタル鳩ハ直ニ Aニ歸來スルモ他ハ B(B.C)ニ殘留ス B

(B.C)ニ殘留セル鳩ヲ Aニ運搬ス 鳩ノ全部ハ Aニ集マリ雌雄

相會シ夫々巢房(巢房ハ雌(雄)ノ不在中留守鳩能クコレヲ守ルモ、

ナリ)ニ放テス振ニテ同棲ノ樂ヲ享ク但シ Aニ於テ給餌ヲナシ

第三日

午前八時 A、雄(雌)ノミナ巢房ニ閉シ他ノ一方ヲ解放ス B(B.C)ニ
馴致セラレタル鳩ハ直ニ B(B.C)ニ趣キ他ハ Aニ入舎スルヲ以テ之ヲ B

(B.C)ニ運搬ス 午前九時 A、殘鳩全部ヲ解放ス 同日下午三時

三時 B(B.C)ニ於テ給餌ヲナシ此夜ハ此處ニ宿ス

第四日

午前八時 B(B.C)ニ於テ給餌ヲナス 午前九時全部鳩ヲ解放ス

第五 第三回ニ同シ
第六 第四回ニ同シ

Aニ馴致セタル鳩ハ直ニAニ歸來シ同時ニB(B.C)ニ馴致セラレタ
ル鳩ノ一部ヲ誘導シ來ルコトアリ B(B.C)ニ残留セル鳩ハ全部之ヲAニ
運搬シ夫々雌雄同棲セシメ此夜ハ此處ニ宿ス

コ頃ヨリ鳩ノ自由意志ニヨリ漸次對鳩舎ニ向テ出發スルモラ生ス
ヘシ之等ニ對シテ特ニ賞與的ノ飼糧ヲ與フルヲ要ス

尔後右ノ要領ニ據リ之ヲ反復繼續スルトキハ漸次訓練セラレ概ネ全鳩
カA―B(A―B.C)間ヲ往復飛翔ヲナスニ至ル訓練中出發ヲ肯
セサル鳩ニ對シテハ適宜矯正シテ整然實施スル就キ一ニ範例ヲ示シテ
ルニ過キス若シ夫レ距離ノ遠近往復回數ノ増減雌雄各別往復等之ヲ
應用實施ノ方法ヲ數ヘ來ラハ枚擧ニ遑アラサルヘシ

(附)

昭和七年度横須賀防備隊往復鳩訓練計畫

昭和七年五月十日

横須賀防備隊

往復鳩訓練計畫

一 目的

(一) 海上往復鳩、養成訓練ニ必要ナル諸事項並完成所要日数、研究
 但訓練ハ出動船艇ヲ利用シ行フヲ原則トス

(二) 軍鳩往復通信ノ價值

二 編成

(一) 鳩舎

(1) 棲息鳩舎

(第二海堡鳩舎) 一

之ヲA鳩舎ト仮稱ス

(2) 食事鳩舎

(補充鳩舎第貳鳩舎) 一

之ヲB鳩舎ト仮稱ス

(二) 鳩救

幼鳩約三羽(現在第二海堡飼育中モ)

(三) 従事員

兵二(兼)

但シA鳩舎ニ於ケル日常作業員ハ概ネ海堡士派遣聴音員ヲ
 シテ之ニ當ラシメ訓練其他必要ノ場合ニ軍鳩員ヲ派遣スルモ
 ノトス

三 訓練距離

本隊第二海堡間

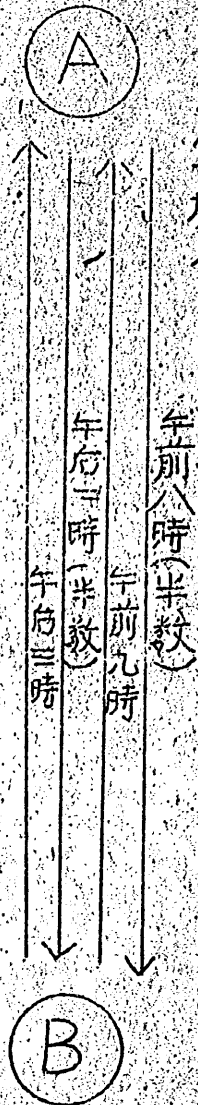
約十軒

四 訓練開始

昭和七年五月中旬

五 訓練完成後ノ通信法

第二海堡鳩舎



六 訓練予定表

但し初々午前一位復シ目的トシテ訓練完成後半数鳩ヲ午後往復セシムル様漸時訓練スルモノトス

目次	A 鳩舎	B 鳩舎	摘 要
第一日	全鳩ヲBニ送致ス	Aヨリ到着ナル鳩ハ 馴致ニ努ム	
自第二日		馴致 (展望観察) 午前八時 給餌	
至第十四日			
第十五日	飲水ヲ準備シ呼込準備 ヲナス午前八時十分頃B ヨリ飛來スル鳩ヲ呼込ム	午前八時 半数解放	Bニ於テ解放後際出發セサルモノハ 一旦呼込ミ出動艇ヲ利用シAニ 送致スルカ又籠内ニ閉置ス セム

第十六日

午前、時、解放ス。午前、時、十分、鳩ハ、兩鳩舎ニ於テ解放、除他、鳩ハ、午前、ヨリ飛來ス。飛來スル鳩ヲ呼ビ、舎ニ飛行タカルモノハ一旦呼ビ、ル鳩ヲ呼ビ、給餌シシ小憩後之、出動艇ニ送致ス。

ヲ解放ス。

托

送致ス

第十七日以後、大体第十五日、十六日、要領ニ從ヒ鳩ヲシテ自ラ棲息、茲探食シ、爲 A、B 鳩舎間ヲ往復スル習性ヲ附與スル爲自ラ對抗鳩舎ニ飛行カ、カ、鳩ハ出動艇限リ出動船艇ヲ利用シテ夫々鳩ヲ兩鳩舎間ニ送致シ、又ハ金籠内閉置等常ニ鳩ハ心理ヲ考察シ、其ノ情况ニ從ヒ之ニ通應スル處置ヲ講シ、遂ニ整然兩鳩舎間ヲ往復スルニ至ラシム。

(備考)

第十七日以後、訓練ハ出動船艇ノ行動ト密接ナル關係アルヲ以テ茲ニ詳記ス。必要ニ應ジ係員ヲシテ其都度指示セシム。

第七章 使用法

総則

軍鳩使用法、一般科學的通信機關ノ夫レト異リ、極ニ簡單容易

(終)

ニシテ使用鳩ノ性能ヲ知リ次ニホス心得ヲ會得スルトキハ鳩ニ關スル智識經驗ヲ有スルモノト雖モ克ク之ヲ用ヒテ通信ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ

第一節 放鳩ニ就テ

輸送(携行)スル鳩ハ疲勞ノ狀況ヲ顧慮シ適宜安靜ニシテ休息ヲ與ヘ清淨充大氣ニ充分容セシメタル後放鳩スヘシ放鳩前ニハ心地良キ空腹狀態ナルヲ良シトスルモ遠距離(百五十軒以上)ノ飛翔ヲナスモノアリテハ飲水並小量飼糧(麻實粟稷)ヲ與フルヲ可トス放鳩前ニハ鳩ノ健康狀態ヲ診査スヘシ放鳩ハ成可ク展望良好ナル位置ヲ選ミ且ツ務メテ障害物ヲ避ケルヲ要ス夜間放鳩ニ於テ殊ニ然リ又電燈下ノ放鳩ハ避ケルモノトス航空機ヨリ放鳩ニアリテハ尾部緊張線等ヲ避ケテ安全ナル方向(適宜側方又ハ上下方)ニ強ク放擲スヘシ普通型飛行機アリテハ鳩ヲ握リ頭部ヲ下ニ向ケ下方ニ放投スレバ概ネ安全ナリ昼間鳩ノ放鳩ハ普通日没前ニ充分到達シ得ル如ク時間ヲ見越シテ行フモノトス但シ夜間鳩ハ此限リテアラズ鳩ノ速クハ獲テ情況ヨリ一定シ難キモノト分速六百乃至八百米ト見ルヲ安全トス

第二節 信書ニ就テ

發信ニ際シテハ以テ通信用紙ノ規定ノ欄ニ時刻場所發受信者名發信番號鳩番號ヲ記註スヘシ(時刻ハ三時間制トス)信書ハ複寫紙ヲ用ヒ三通調製シ一通ハ後証査トシテ保存シ他ニ通ヲ二羽ノ鳩ニ持ルヲ原則トス信書ニ記ハ

註ス文字、明瞭ナルヲ要ス。信書ハ、信書筒ニ收メテ鳩ノ脚ニ結着スルヲ原則ハニ
トスルモ、重要ナル通信ニアリテハ、信書ヲ縦ニ折疊シ、其儘鳩ノ脚ニ結着
スルコトヲ得。但シ雨天ノ際ハ、必ス信書筒ヲ用ヒ、信書ノ濡ルヲ防止スヘシ。又寫
眞「ナル」或ハ多量ノ通信文ヲ有スルキハ、信書囊ニ收メテ鳩ノ胸部ニ
装着スヘシ。但シ信書囊ハ、特種ノ信書携行要具ナルヲ以テ、平常之ヲ附着
携行スルコトニ慣ラサル鳩ヲ使用スルヲ要ス。信書ノ結着又ハ信書筒、信
書囊、装着ハ、其緩急通度ナルコトニ注意スヘシ。重要通信アリテハ、必
ス同一信文ヲ三羽以上鳩ニ托シ、若干時刻ヲ異ニシテ放鳩シ、信書ノ必達ヲ
計ルヲ要ス。

第三節 放鳩ト氣象

放鳩ト氣象ト關係ハ、相當複雑ニシテ簡單ニ解説スルコトハ困難ナルヲ以テ
此處ニハ、單ニ放鳩實施ニ際シ遭遇シタル氣象ニ對シ實施者ノ決意
ヲ示ス爲ニハ、要ナル項目ヲ掲グルコトス。

(1) 遠距離放鳩ニアリテハ、天候、視界共ニ相當良好ナルヲ要ス。

(2) 中距離放鳩ニアリテハ、降雨、雪、霧及視界等ノ情況甚ダ不良ナルヲ

又ハ風速十五 米突以上ノ向風ニヒテ得タル場合、外放鳩ヲ見合ス

ヲ可トス

但シ降雨タリ、歇レタリニテ視界ノ相當ニ廣キトキハ放鳩スルモ可ナリ

(一) 近距離放鳩ニアルハ大降雨雪濃霧暴風等ニテ帰巢甚敷ク障害アリト
認メタル時ハ外放鳩差支ナキモトス

(二) 降雨雪甚敷キ時及霧中夜間放鳩ハ訓練トシテハ實施セサルヲ可トス
以上六日常之ニ對スル舍外飛翔其他訓練ヲ課シ之ニ耐ル体カラ有スル鳩
ニ就テ實施スヘキモノシテ日常何等之對ル訓練ヲ課セスシテ突然有ル如
ク實施スルハ危険ナリ

第四節 鳩携行ニ就テ

鳩通信ハ往復通信場合外鳩ヲ發信地点ニ携行スルヲ要スルヲ以テ吾人ハ
最モ輕便ニ鳩ヲ携行シ得ル方法ヲ講究セサルヘカラス故ニ輸送要具ハ容積
重量共ニ輕少ナルヲ要スト共ニ時ニ隱蔽包裝シテ携行スルモ尚能ク鳩ノ
活動カラ減退セシメサルヲ要ス然レ共大氣中ニ呼吸スル生物トシテ之ニ對ス
ル適當ノ方法ヲ講セサルハ生理的ニ活動カラ減退シ甚タシキハ窒息セシムルニ
至ルコトアリ 鳩携行上ノ注意事項

(一) 鳩籠(鳩容器)ヲ携行ストキ強烈ナル日光ノ直射及濕氣等ヲ避クル外
格別ノ顧慮ヲ要セス

(二) 網袋ニ入レル時ハ頸部ヲ壓縮セザルニ注意スヘシ

(三) 新聞紙又ハ綿布等被覆包裝スル時ハ能ク長時間携行耐ヘ得ヘキ
モ使用前約五分間休養ヲ要ス又ノ場合頸部當ル部分ニ數個ノハニ

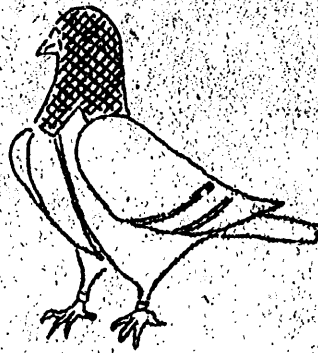
孔ヲ穿ツ時ハ疲勞防止上甚ク有効ナリ

(ニ) 密閉包装スルニ當リ麻布モリン等ノ如キ織目ノ緻密ナルモノアリテハ綿布ニ比シ大ニ呼吸ヲ障害シ疲勞ヲ増大シ飛翔力ヲ減殺スルモノナリ

(ホ) 靱類ニ入レ携行スルハ危険ナリ

(ハ) 秘匿携行ニ際シ布片ヲ以テ目隠シラヌ時ハ概ネ發聲セシメサルコトヲ得

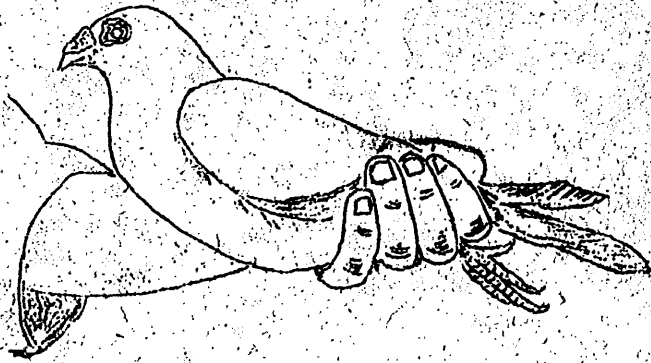
目隠



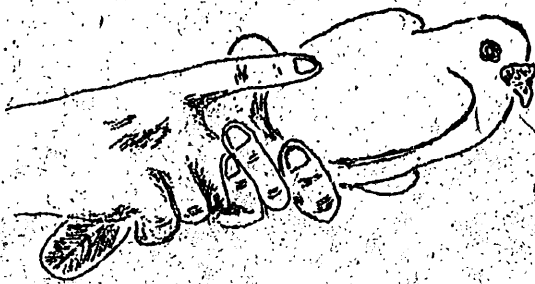
第五節 管理中ノ注意

鳩籠及鳩容器ハ止ヲ得サル場合外定数以上ノ鳩ヲ收容スヘカラス殊ニ籠内閉置數日ニ亘ル時ハ適宜定数ヨリ減シテ收容スヘシ又實用通信等ニ一部ノ鳩ヲ使用シタル場合ハ各籠ニ亘リ鳩ヲ平均ニ收容シ彼等ヲシテ成可ク窮屈ヲ感セシメサルコトニ務ムヘシ 現在我々海軍ニ使用スル鳩籠ハ輸送用ノモノハ十六羽携帶用ノモノハ八羽 四羽 二羽ヲ以テ其收容定数トス

鳩ノ持チ方



鳩ノ渡シ方

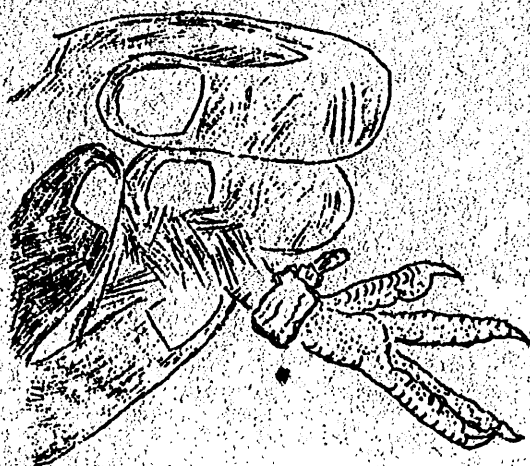


輸送中空氣ノ流通ヲ計リ日光ノ直射(夏季ニ於テ殊ニ然リ)ヲ避ケ且ツ雨露
波浪等ノ侵害ヲ受ケサル處ニ鳩籠ヲ置キ時々飲水(要スルハ飼糧)ヲ與ラヘ
シ但シ遠距離ノ輸送ニアリテハ少クモ日ニ一回籠内ノ糞ヲ取り去リ敷藁(敷
布)ヲ交換シ以テ羽翼ヲ汚損ヲ防クヲ要ス
籠内閉置中、鳩ニ對シ給餌ハ規定ノ日量ヨリ稍減シテ行フモトス管理法
良否ハ鳩ノ歸巢成績ニ著シキ影響ヲ及ボス事ヲ記憶スルヲ要ス

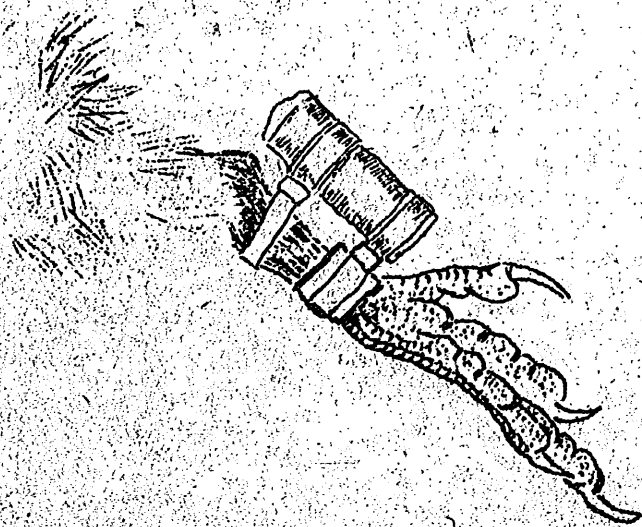
第六節 鳩ノ持チ方 其他ニ關スル圖

0845

信書結着

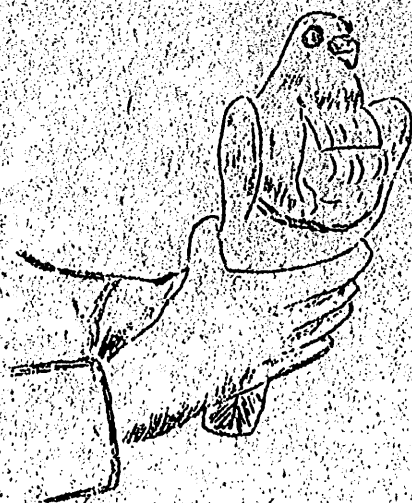


信書筒装着



0846

信書囊装着



寫真機装着



第八章

蕃殖

第二節 親鳩ノ選擇

自然界ニ吾人想像クモ及ハサル靈妙嚴肅ナル法則アリ遺傳如キ其トシテ凡テ動物植物ハ各其素質ヲ子孫ニ遺傳スルモノシテハ優秀ナル仔鳩ヲ得ル爲メ遺傳學ノ原則ヲ尊重スル共ニ豐富ナル經驗造詣ヲ以テ嚴密ニ親鳩タルモノヲ而シテ其最重要ナル條件ハ強壯ナル體軀ヲ有シ帰巢成績常ニ優秀ナル事ナリ

第三節 交配

交配ハ選擇シタル鳩ヲ以テ人爲的ニ新タル配偶關係ヲ作ルヲ云フ一雌雄分離迄交配時機鳩ハ自己巢房ニ對スル占有性ニ富ミ(雄鳩ニ於テ殊ニ強烈ナリ)一雌雄關係嚴格(雌鳩ニ於テ殊ニ然リ)ナリ故ニ既定ノ巢房迄ニ配偶ヲ變更スルハ相當困難ヲ感スルヲ常トス然モ優秀ナル仔鳩ヲ得ル爲メ萬難ヲ排シテ之ヲ實施セサルヘカラス斯カル場合雌雄ヲ相異ル鳩室ニ隔離スルトキハ次第ニ從來ニ配偶者ニ對スル愛慕ノ念ヲ去ラシメ性欲ヲ増進シ尙雌鳩ニアリテハ前配偶者トノ交情關係ヲ消滅シ容易ニ其ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ雌雄ノ分離ハ冬季間(十月乃至一月)ニ於テ之ヲ行ヒ翌春(二月)旺盛ナル發情ヲ俟テ一齊ニ交配ヲ行フハ作業容易ニシテ且ツ整ナル良キ仔鳩ヲ得

分離期間ハ凡二十日以上適當トスルモ鳩舎ノ性質、氣候及訓練計画等ヨリ自ラ多少ノ差異アリテ種鳩舎ノ如キ蕃殖ヲ主眼トスルモノアリテハ充分ナル分離期間ヲ得ラルヘク且ツ自然ノ妙機ニ適合シテ交配時機ヲ選定シ得ヘシト雖モ一般實用通信ヲ主トスルモノアリテハ長期ニ亘ル分離ハ自ラ通信能率ヲ低減シ又夜間鳩舎ノ如キ極メテ短期間ノ蕃殖ヲ余儀ナクセラルモノアリテハ實用上雌雄分離ヲナスコトヲ不便トスル場合少ナカラス斯ル所ニアリテ勢ヒ一部ノミノ分離ヲナスカ又ハ全然分離セスシテ強制交配ヲ行フモトス若シ止ム得ス強制交配ヲ行フ場合ハ相當期間前ヨリ鳩巢ヲ撤シ巢房ヲ閉鎖シ置クモトス

交配時機モ亦大々其ノ要求スル所ニ從ヒ自然ヲ利用シ人爲的ニ之ヲ活用シテ實施スルコト肝要ナリ彼温室ニ燠燠タル美花ヲ見ニ十年來晝間於テノミ使用シ得ルモノト信シラレ來ル鳩モ人爲的ニ活動性ヲ夜間ニ追延長シタルカ如キハ最モ卑劣ナル實例ニシテ以テ參考ニ資スヘキナリ

茲ニ注意スヘキハ性慾未發ノ鳩ヲ配合スルモ其効ナク又寒冷甚タシキ時ニ孵化雛育共ニ不良ニ陥ルヘキコトコレナリ

ニ支配上注意スヘキ事項

親鳩ノ体格 過大ナラス 過小ナラス 且各部ノ均衡ヲ保ツモラ良シハ九

トス故ニ選定シタル鳩ニ就キ彼是長短ヲ參酌シテ均衡ヲ保タシムル也。
如ク配偶鳩ヲ決定スルヲ要ス一般ニ体格ハ母性ノ遺傳ヲ受クルコト多シ
雌雄鑑定 外貌ニ依リテ雌雄ヲ鑑定スルコトハ相當ニ經驗ヲ要スルヲ
以テ常ニ豫メ鑑定シ置クヲ要ス

年齢 二歳ヨリハ歳位迄ハ親鳩タル資格ヲ有スルモ三歳乃至六歳附
近ヲ親鳩トシテ最適良トス而シテ老鳩ハ壯鳩ヲ配シ其一方ニ偏スル
交配(老ト老、幼ト幼)ハ好メテ之ヲ避クルヲ要ス

羽色 同色ニアリテハ濃厚ナルモノヲ良トスモ淡色ナルモノヲ親鳩トスル場
合ハ之ニ一段濃厚ナルモノヲ配シ成ル可ク仔鳩ノ羽色ヲ濃クスルコトヲ計ルヘシ
又色彩ノ調和ヲ計リ甚ク敷ク羽色ノ異ルモノハ成可ク交配ヲ避クルヲ要ス
血族交配 良否兩様ノ結果ヲ生スヘキモ努メテ之ヲ避クルヲ要ス

巢房 雄鳩ハ雌鳩ニ比シ巢房ニ對スル占有性ニ富ミ且ツ執着強烈ナリ
故ニ新タル番ノ鳩ヲ巢房内ニ容ルニ當リテハ雄鳩ヲ先ニスルヲ例トス
又此際從來雄鳩ハ占有セシ巢房ヲ之ニ充ツル時ハ管理上甚ク有利ナリ
巢房ノ位置形狀等ハ蕃殖上(歸巢成績亦然リ)ニ及ボス影響甚大
ナリ故ニ之ヲ能率ノ向上ヲ期セントセハ適當ナル容積(過度ニ大ナル巢房ハ
反テ弊害多シ第五章第三節參照)ヲ有シ極メテ觀察ニ便ナル明ル
キ巢房ヲ用ヒ日光(東南)ニ面シテ配列スルヲ要ス鳩ハ一見暗キ巢房

ヲ好カク感セラル、コアルモ衛生拉日常ノ管理觀察等ノ見地ヨリ暗キ巢
 房ハ極メテ不利ナルミナラス實驗ニ成績ハ明ルキ巢房ニ及ハサルコト遠シ交配
 後ハ巢房ノ扉ヲ閉シ専ラ情況觀察ニ務メ給餌、給水ヲ忘ルヘカラス通
 例交配後早キハ一二時間過クモ、ニ三日ニテ交配完成スルモノナルモ甚タシ
 ク嫌ヒ猛烈ニ鬭爭スルモノハ差支ヘナキ範圍ニ於テ彼此雌雄ヲ交換セハ其
 ノ多クハ治マルモノナリ交配完成セハ各巢房ノ扉ヲ開キテ運動セシメ且
 ツ室内(要スル巢房内)ニ苔葉切レ松葉枯草ノ根等ヲ撒入シテ營巢ニ便
 ス

第三節 産卵孵化育雛

交配完成シ之尾スルニ至ラハ一週間前後ニ産卵ヲ始ム
 産卵前ニ特ニ壯弱未、土塩等、給餌ヲ怠ルヘカラス

卵ハ午後産出スルモノ多ク通常第一卵産出後一日(約四五時間)ヲ隔テ、
 第二卵ヲ産出シ爾後雌雄交互(兩鳩存在スルトキハ夜間ハ殆ト雌鳩ニ)

抱卵ス

抱卵中訓練其他爲一オラ飲クコト二日以上ニ亘ルトキハ卵ヲ適當ナル他ノ巢
 房ニ移テ抱卵セシムルヲ要ス

有精卵ト無精卵ト識別ハ卵ヲ握リテ燈火又ハ太陽ノ光線ニ對シ從ニ透視九一